

# 関東地方整備局における 段階選抜方式の取り組み

国土交通省関東地方整備局  
企画部技術調査課 石浜 康賢

## 1. はじめに

公共工事の契約にあたり、価格と品質（技術力）を総合的に評価する総合評価方式が本格的に導入されて7年が経過し、関東地方整備局では平成19年以降ほぼ全ての工事で適用しているところである。発注者は国民にとって最も有利な調達を行うため、価値と品質の最も優れた社と契約を行うことが求められている。このため、入札参加者に個別の工事特性に応じた技術提案やVE提案を求め価格との総合評価を行っているが、参加者には技術提案作成に係わるコストや労力が負担となる一方、発注者にとっては短期間に大量の技術提案を審査する事務負担が課題となっている。これらの負担を軽減するため段階選抜方式の試行を実施しており、本稿では関東地方整備局の今までの取り組みと主な事例を紹介するものである。

## 2. 関東地方整備局における実施状況

### ① 関東地方整備局における応札状況

関東地整の平成23年度の工種別応札状況は図-1、2のとおりであり、近年WTO案件の入札参加者が年々増加しており、特に一般土木、鋼橋上部、建築、PC等で平均20者以上の応札がある状況となっている。

### ② 段階選抜方式の試行状況

関東地方整備局では、平成22年度から総合評価落札方式で技術提案を求める工事

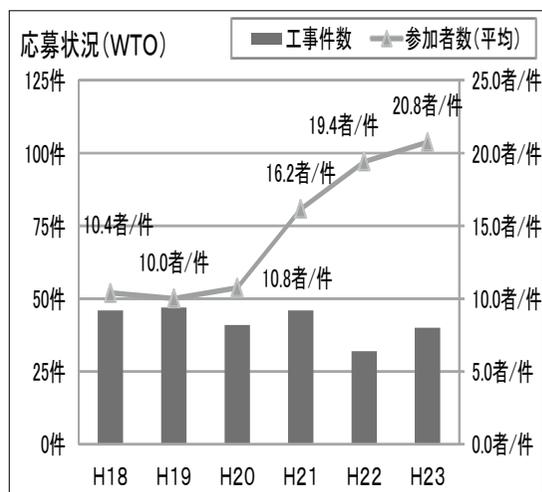


図-1 応札状況 (WTO)

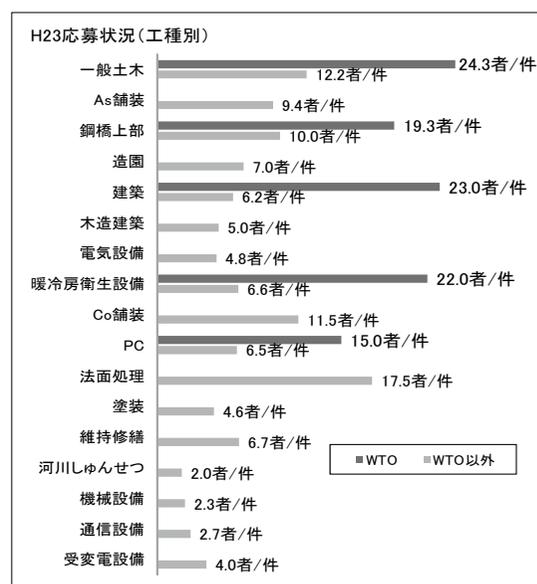


図-2 H23年度工種別応札状況

表－1 関東地方整備局における段階選抜方式の実施状況

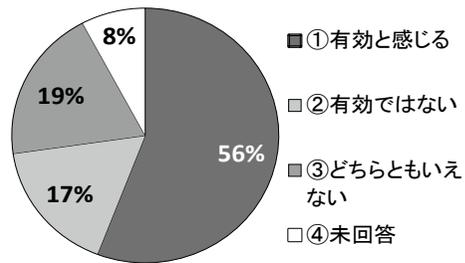
年度	工事名	工種	総合評価タイプ	予定価格	入札参加者	選抜者数	ヒアリングの有無
H22	矢切函渠その8工事	一般土木	標準Ⅱ型	約3.8億円	28	10	無
H23	圏央道東高架橋上部(その6)工事	鋼橋上部	標準Ⅱ型	約5.4億円	18	10	無
H23	中部横断一色川橋上部工事	PC	標準Ⅱ型	約4.6億円	12	10	無
H23	圏央道神崎高架橋上部工事	鋼橋上部	標準Ⅱ型	約3.2億円	15	6	無
H23	中部横断自動車道佐久南IC高架橋他上部工事	鋼橋上部	標準Ⅱ型	約5.5億円	20	6	無
H24	堀之内地区函渠その5工事	一般土木	WTO標準型	約85億円	18	5	有
H24	田尻地区函渠その6工事	一般土木	WTO標準型	約95億円	14	7	有
H24	さがみ縦貫葉山島地区改良その9工事	一般土木	WTO標準型	約15億円	18	10	無
H24	H24内田堤防強化工事	一般土木	標準Ⅱ型	約3億円	22	12	無
H24	中部横断道路常葉川橋他上部工事	鋼橋上部	WTO標準型	約30億円	16	7	有
H24	神奈川県警察学校道場・体育館(12)建築その他工事	建築	WTO標準型	約80億円	19	7	有

で、提案者が多数見込まれる案件について、受発注者双方の事務量、手続コストの低減を図る観点から総合評価方式における段階選抜を試行している。試行件数は平成22年度に1件、平成23年度に4件、平成24年度6件で現在まで11件の工事で実施となっている。平成24年度からは、一次審査項目として企業と技術者の実績・成績等の配点バランスを1：1とし、選抜者数は5～10者の中でパターンを変えて試行を実施。二次審査は、「施工計画」「VE提案」等の技術提案を求め評価を行う。10者未満に絞り込むケースでは配置予定技術者ヒアリングも実施している。

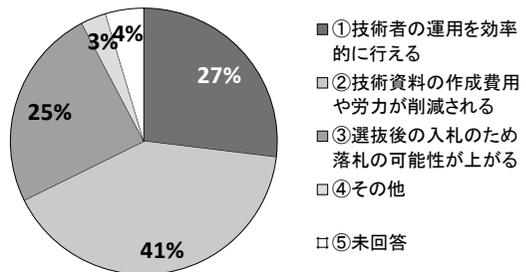
③実施結果

入札参加者に手続後にアンケートしたところ、約6割が「技術提案書作成の負担軽減に有効との回答があった。また、本方式のメリットについて「技術資料の作成費用や労力が削減される」(約4割)、「技術者の運用を効率的に行える」(約3割)との回答を得ており受発注者双方の事務負担の軽減、コスト縮減の効果あることがわかる。

問：技術提案書作成の負担軽減に有効か



問：段階選抜のメリット



3. 終わりに

上記の様なメリットが確認された一方で、段階選抜方式の普及に当たってはヒアリングに係わる事務負担や企業の技術力を適切に評価できる一次審査項目についてさらに検証を進める必要があり、当面試行を継続して検討していく予定である。